

菱の実

佐賀大学理工学部同窓会会報 第23号



発行日 2021年7月1日

発行 菱実会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dousoukai@sadai.jp

ホームページ <http://sadai.jp/alumni/>

編集 代表者 小玉純士

同窓会活動をより活性化させるためにご協力を！

菱実会会長 穂屋下 茂（機械・S45入）

同窓生の皆様には、日頃より菱実会の活動にご理解とご協力いただき有難うございます。

菱実会の総会・懇親会開催は、毎年9月の第1土曜日と決めておりますが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みて、昨年度に続き今年度も中止することになりました。

同窓会事務局では、同窓生名簿管理、会報の発行及び会員への送付、学生への支援、支部会・地区会開催のご案内などの業務を行っております。特に菱実会会報「菱の実」は、大学や学部の教育・研究・社会貢献等の動きも掲載して、卒業生の皆様により詳しい理工学部の近況を伝えていけるように内容を吟味しているところです。

会報は同窓会Webサイトにも掲載しておりますが、学生（学部生・大学院生）につきましては、ご家族の方にも大学や学部の近況を知っていただきたいので「学生・家族様宛」に送付しております。卒業後実社会で活動している社会人につきましては現住所宛に送付しております。ところが、学部卒業や大学院修了の時、また人事異動などで引っ越しされた場合などに、住所変更届を同窓会事務局に出さない方が毎年多数いらっしゃいます。送り先が不明になりますと、会費が有効期限内であるにも関わらず、佐賀大学と卒業生を繋ぐ有効な手段である同窓会会報等を送付することができなくなります。とりあえずは親元等にお送りして、現住所を教えていただくこともあります。郵便物が戻ってきますと、そこで卒業生との連絡は途絶えてしまいます。住所変更届は、同窓会Webサイトや同窓会事務局e-mailからでもできるようにしております。現在、菱実会事務局ではデジタル化を推進しております。菱実会総会開催、会報発行、各支部会・地区会及び佐賀大学校友会の開催等のお知らせは、メール配信システムで一斉に配信できるように準備中ですので、e-mailアドレスの登録も是非お願いします。

理工学部同窓会では、同窓生のモチベーションを高めるのに、菱実会賞、理工学部同窓会長賞、佐賀大学同窓会長賞、理工学部長賞、菱実会・理工学部広報賞の表彰制度を設けております。理工学部同窓会長賞は、2020年10月1日付で制定した賞で、2020年度から理工学部長に推薦していただきました。2016年度から開設しております菱実会賞とは性質が異なる賞であります。そこで、重大なお知らせがあります。

菱実会賞は、2020年度までは学部学生のみが対象でしたが、2021年度から佐賀大学理工学部に入學した学生及び卒業生で、かつ同窓会会費を納入している正会員全員を対象にするように規約改正しました。募集は、3つの部門（学部学生、大学院生、及び卒業後実社会で活動している社会人）から行います。多くの同窓生の積極的な応募をお待ちしております。詳しくは、菱実会Webサイトの菱実会賞表彰規程をご覧ください。



第1回理工学部同窓会長賞表彰式の後で（2頁参照）

同窓会会費納入のお願いです。同窓会は皆様の同窓会会費で成り立っております。なにとぞ、ご協力・ご支援のほどよろしくお願ひいたします。年会費又は終身会費の納入手続きについては、菱実会Webサイトの「住所変更・会費納入」をご覧ください。



第1回（2020年度）理工学部同窓会長賞の表彰

2021（令和3）年3月18日（木）に、菱の実会館の多目的室において理工学部同窓会長賞の表彰式を行いました。表彰式は、会長から1名ずつ表彰状と副賞が手渡された後、同窓会役員との記念写真撮影（1頁参照）、さらに約30分間役員との懇談会を行い、約1時間で会を閉じました。なお、式では集合写真の時以外は全員マスクをして、さらにドアや窓は開放し、なるべく三密を避けて行いました。

理工学部同窓会長賞は、2020年10月1日付で制定した賞で、2020年度から、学業の他、学術研究活動、課外活動、社会活動等において総合的に優秀であると認められた学部生（4年生）を、理工学部長に各部門（旧学科）から1名ずつ候補者を推薦していただきました。

第1回目となる2020年度理工学部同窓会長賞授与者は、2017年（平成29年）に入学された次の6名の方々です。（敬称略）

宮崎 彬（機シ・H29入） 片岡 佑太（数理・H29入）

山下 青空（物理・H29入） 矢野雄太郎（知能・H29入）

中野 遼真（電電・H29入） 田中 静流（都市・H29入）

*なお、化学部門は該当者なしでした。受賞者の喜びの声は、菱実会Webサイトをご覧ください。



表彰式



表彰状と副賞を手にして

第6回（2020年度）佐賀大学同窓会長賞の表彰

佐賀大学同窓会では、2015年度から、社会活動、教育、研究等で顕著な社会貢献があったと認められる個人又は団体に「佐賀大学同窓会長賞」を授与しています。2020年度は佐賀大学6学部のうち、4つの学部から推薦がありました。佐賀大学同窓会代表役員会で審査した結果、4組の方々に佐賀大学同窓会長賞を授与することになりました。佐賀大学学位記授与式（2021年3月23日）は新型コロナウイルス感染拡大の観点から、例年より規模を縮小して執り行われましたので、式典の中で同窓会長から受賞者に授与することはできませんでした。表彰状と記念品は受賞者の方々に郵送いたしました。理工学部学生の受賞者及び授賞理由は次の通りです。（敬称略）

受賞者名：浅川 泰輝（知能・H29入）

受賞理由：新型コロナ禍の影響で、飲食店の苦悩を解決したいと考え、接触や密を避けた状態で飲食店の料理を楽しんでもらえる「モバイルオーダーシステム」を開発し、店舗の売上アップと利便性向上に貢献した。更に株式会社ASを起業し、佐賀県ふるさと納税でも支援を集めるなど大きな功績を残した。

第5回（2020年度）菱実会賞の表彰

菱実会賞の授与式が、2020（令和2）年12月21日（月）に菱の実会館において開催されました。2020年度の受賞者は2名で、題目および受賞理由は次の通りです。（敬称略）

受賞者：草場 貴仁（機物・H29入）

題目：大切な命を守る、安心して暮らせるまち、災害に強いまちを目指した地域の防災活動

受賞理由：大学2年次に「佐賀市消防団」に入団し、現在まで学生消防団員として活動を継続している。「大切な命を守る、安心して暮らせるまち、災害に強いまち」を目指し、地域防災の中核として活動している。消防団の活動を通して、団員及び地域の方々と関わることにより、コミュニケーション能力の向上や救命資格の取得など、多くの面で成長している。

受賞者：浅川 泰輝（知能・H29入）

題目：コロナ社会での飲食店を応援するモバイルオーダーシステムの開発

受賞理由：新型コロナ禍で苦しむ飲食店を支援する「モバイルオーダーシステム」の開発に取り組んでいる。佐賀県主催のビジネスプランコンテストで最優秀賞を獲得した。「株式会社AS」を起業し、代表取締役役に就任している。



受賞者のプレゼンテーション

第17回（2021年度）佐賀大学理工学部長賞の表彰

2021（令和3）年4月2日（金）、理工学部6号館2階の多目的セミナー室において、理工学部学生表彰（理工学部長賞）式が執り行われました。コロナ禍の中、三密を避け、集合記念写真撮影の時以外は全員マスク着用で遂行されました。

表彰式では、2020年度の2年次及び3年次の学生で成績が優秀であると認められた19名の学生が表彰されました。これまで、表彰者は各学年各学科1名ずつでしたが、2019年度の入学生からは、1学科12コース制になりましたので、各学年各コース1名ずつを表彰することになりました。

表彰状授与において、理工学部同窓会（菱実会）からは副賞として図書カードを贈りました。表彰のあと理工学部長挨拶、理工学部同窓会長挨拶と続き、出席者全員で記念撮影を行った後、表彰された学生との懇談会がありました。



第17回理工学部学生表彰者（敬称略）

学 科	新4年（2018入）
数理科学科	溝上 太一
物理科学科	楠木 捷斗
知能情報システム学科	谷崎 俊介
機能物質化学科	福田 陽奈
機械システム工学科	LEE JIN YIEN
電気電子工学科	西田 大生
都市工学科	高井 佑豪

コース名	新3年（2019入）
数理サイエンスコース	大坪 亮介
知能情報システム工学コース	須賀 友基
情報ネットワーク工学コース	江口龍之介
生命化学コース	神代 健人
応用化学コース	松田 真希
物理学コース	古賀安友美
機械エネルギー工学コース	二串 綾修
メカニカルデザインコース	香月 勇人
電気エネルギー工学コース	末廣 誠也
電子デバイス工学コース	興田 朋希
都市基盤工学コース	牟田 勇己
建築環境デザインコース	日高 央季

第4回（2020年度）菱実会・理工学部広報賞

理工学部・研究科（理工学研究科及び先進健康科学研究科等）では、教育・研究・地域貢献・国際交流などの各種活動やその成果を対外的に積極的にアピールすることにより、理工学部・研究科に対する認知度とイメージ向上を図り、入学志願者数の増加につながることを、及び同窓生への情報発信を目的として、2017年度より広報情報収集体制の充実化を図っております。その一環として「菱実会・理工学部広報賞」を設立し、顕著な活動や学会発表での受賞等により理工学部・研究科の広報に貢献した学生を表彰するとともに、菱実会よりインセンティブとしてクオカードを授与することにしております。2020年度は、50名の学生に対して、菱実会より記念品（クオカード）が贈呈されました。

◆ 菱実会・理工学部広報賞一覧（2020年度前期分）（受賞学生人数：15名）（敬称略）

記事日付	記事名	学生氏名	指導教員の部門
2020/3/27	電気電子工学専攻大学院生と電気電子工学科4年生が電気学会九州支部長賞を受賞	齊藤 健人・三坂 祐人	電気電子（後藤先生）
2020/3/30	理工学専攻建築環境デザインコース大学院生がCLTアイデアコンテスト2019アイデア部門審査委員賞を受賞	DUANGPUTTAN PATCHARAPORN	都市（三島先生）
2020/4/1	理工学専攻電気電子工学専攻大学院生が2019年IEEE福岡支部発表奨励賞を受賞	Htet Wai Htun	電気電子（豊田先生）
	システム創成科学専攻電気電子工学部門大学院生が佐賀大学学長賞を受賞	Maodudul Hasan	電気電子（豊田先生）
2020/4/28	システム創成科学専攻電気電子工学部門大学院生がBest Presentation Award for Young Researchersを受賞	Jang Hyo Chang	電気電子（田中先生）
2020/5/18	工学系研究科システム創成科学専攻物理科学部門博士後期課程修了生が日本中間子学会若手奨励賞を受賞	徐 興亮	物理（鄭先生）
2020/6/26	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（1）	重富 敬太・壇 亮太・ 山口 夏純	化学（長田先生）
2020/7/22	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（2）	重富 敬太・坂梨 慧一・ 山口 夏純	化学（長田先生）
2020/8/4	理工学研究科理工学専攻大学院生が「学長賞」を受賞	山城 佑太	情報（中山先生）
2020/9/9	システム創成科学専攻電気電子工学部門の大学院生が優秀学生賞を受賞	Maodudul Hasan	電気電子（豊田先生）

◆ 菱実会・理工学部広報賞一覧（2020年度後期分）（受賞学生人数：35名）（敬称略）

記事日付	記事名	学生氏名	指導教員の部門
2020/10/1	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（3）	重富 敬太・壇 亮太・ 魚谷 尚輝	化学（長田先生）
2020/10/7	工学系研究科循環物質化学専攻大学院生がインドネシア・ムハマディア大学主催の国際会議で優秀論文賞を受賞	Shaimah Rinda Sari	化学（富永先生）
2020/10/9	理工学部が技術協力した吉野ヶ里町×那珂川市の「ROUTE385smartスタンプラリー」が10月10日10時から開始	矢野 雄太郎	情報（中山先生）
	理工学部と合同会社ロケモAI（ろけもあい）が吉野ヶ里町と連携してオンラインマップ等の提供を開始	梶原 薪	情報（中山先生）
	オンライン就職活動の支援サービスの提供開始～佐賀大学・ホテルニューオータニ佐賀と連携してスタート～	梶原 薪	情報（中山先生）
佐賀県が実施するSAGAナイトテラスチャレンジ第3弾にて学生ベンチャー企業の開発したモバイルテーブルオーダーを実施	浅川 泰輝・大山 達也・ 小田 武尊	情報（中山先生）	
2020/10/13	ビジネスプランコンテスト「さがラボチャレンジカップ2020」で理工学部知能情報システム学科4年生の浅川泰輝君が最優秀賞を獲得	浅川 泰輝	情報（中山先生）
2020/10/14	機能材料化学コースの大学院生が化学工学会第51回秋季大会において優秀ポスター賞を受賞	小川 真矢	化学（森貞先生）
2020/10/21	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（4）	重富 敬太・後藤 省悟・ 山口 夏純	化学（長田先生）
2020/11/5	理工学専攻機能材料化学コースの大学院生が化学工学会第51回秋季大会において優秀ポスター賞を受賞	鷲野 岳大	化学（川喜田先生）
2020/11/27	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（5）	重富 敬・坂梨 慧一・ 山口 夏純	化学（長田先生）
2020/12/8	理工学専攻建築環境デザインコースの大学院生らが日本建築学会の2020年度支部共通事業・日本建築学会設計競技で優秀賞を受賞	土田 昂滉・西田 晃大・ 森本 拓海	都市（三島先生）
	理工学専攻建築環境デザインコースの大学院生が日本電気硝子株式会社主催第27回空間デザイン・コンペティションに初入選	上田 友美子	都市（三島先生）
2020/12/16	理工学専攻機能材料化学コースの大学院生が日本化学会九州支部秋期研究発表会において優秀ポスター賞を受賞	古賀 舜也	化学（山田先生）
2020/12/23	理工学専攻機能材料化学コースの大学院生が日本化学会九州支部秋期研究発表会において優秀ポスター発表賞を受賞	成瀬 茂	化学（富永先生）
2020/12/25	佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施（6）	重富 敬太・壇 亮太・ 山口 夏純	化学（長田先生）
	理工学専攻機械システム工学コースの大学院生が計測自動制御学会九州支部学術講演会学生発表交流会において最優秀発表賞と優秀発表賞を受賞	永江 快成・中川 裕貴	機械（佐藤先生）
2021/1/14	理工学専攻機械システム工学コースの大学院生が精密工学会九州支部学生Web講演会においてベストプレゼンテーション賞を受賞	中井 勇志	機械（長谷川先生）
2021/1/18	システム創成科学専攻電気電子工学部門の大学院生が国際会議でStudent Presentation Awardを受賞	Maodudul Hasan	電気電子（豊田先生）
2021/2/16	理工学専攻電気電子工学コースの大学院生が電気・情報関係学会九州支部連合大会において講演奨励賞を受賞	萱島 立樹	電気電子（西山先生）
2021/2/19	理工学専攻知能情報工学コースの大学院生が第73回電気・情報関係学会九州支部連合大会において情報処理学会九州支部奨励賞を受賞	窪園 隆介	情報（福田先生）
2021/3/2	理工学部の学生ベンチャー企業（㈱ASI）に「佐賀大学発ベンチャー」称号の第2号を授与	浅川 泰輝	情報（中山先生）

2020年度佐賀大学学位記授与式

2021（令和3）年3月23日（火）に、佐賀大学学位記授与式が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大を回避するため、会場への入場は卒業生のみを制限して行われました。また、恒例の学科毎に開催される祝賀会・謝恩会は中止になりました。なお、2020年度の卒業生及び修了生は次の通りでした。卒業生及び修了生の今後のご活躍を期待しております。

理工学部 卒業	
数理科学科	29名
物理科学科	39名
知能情報システム学科	63名
機能物質化学科	95名
機械システム工学科	80名
電気電子工学科	88名
都市工学科	91名
計	485名

全学の学部 卒業	
文化教育学部	5名
教育学部	118名
芸術地域デザイン学部	108名
経済学部	243名
医学部	164名
理工学部	485名
農学部	159名
計	1,282名

理工系研究科 修了	
【理工研究科修士課】	
理工学専攻	149名
【工学系研究科博士前期課程】	
機械システム工学専攻	0名
電気電子工学専攻	1名
都市工学専攻	1名
先端融合工学専攻	3名
【工学系研究科博士後期課程】	
システム創成科学専攻	4名
計	158名

全学の研究科 卒業	
学校教育学研究科（専門職学位課程）	20名
地域デザイン研究科（修士課程）	18名
医学系研究科（修士課程）	5名
医学系研究科（博士課程）	10名
先進健康科学研究科（修士課程）	36名
理工研究科（修士課程）	149名
工学系研究科（博士前期課程）	5名
工学系研究科（博士後期課程）	4名
農学研究科（修士課程）	22名
計	269名

2021年度佐賀大学入学式

2021（令和3）年度の佐賀大学の入学式は、2021年4月2日（金）に佐賀市文化会館において開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、三密を守って当事者のみしか式場には入れませんでした。2021年度の学部と研究科の入学生数は下記の通りでした。

2021年度入学式に引き続き、コロナ禍のため2020年4月に開催できなかった2020年度入学生（現2年生）対象の入学式も実施されました。

全学の学部	
教育学部	124名
芸術地域デザイン学部	114名
経済学部	262名
医学部	163名
理工学部	495名
農学部	154名
計	1,312名

全学の研究科（修士課程・博士前期課程）	
学校教育学研究科	20名
地域デザイン研究科	18名
先進健康科学研究科	55名
理工学研究科	158名
農学研究科	33名
計	284名

全学の学部（編入学）	
芸術地域デザイン学部	6名
理工学部	13名
農学部	9名
計	28名

全学の研究科（博士課程・博士後期課程）	
医学系研究科博士課程	18名
工学系研究科博士後期課程	6名
計	24名

理工学部教員一覧

(2021年5月1日現在)

2018年4月より理工学部の教員は、「自然科学域・理工学系」に所属して教育研究活動を行い、教育組織(理工学部・理工学研究科及び先進健康科学研究科等)に配置され、学生の教育を行っています。

学部長：豊田 一彦
 副学部長：後藤 聡 皆本 晃弥
 佐藤 和也
 学部長補佐：大渡 啓介 田中 徹
 カーンMDイスラム

■ 数理部門

教授
 市川 尚志 ○梶木屋 龍治
 半田 賢司
 准教授
 岡田 拓三 中村 健太郎
 日比野 雄嗣 木下 武彦
 講師
 加藤 孝盛 猿子 幸弘

■ 情報部門

教授
 岡崎 泰久 奥村 浩
 ○只木 進一 花田 英輔
 福田 修 皆本 晃弥
 松前 進
 准教授
 掛下 哲郎 木村 拓馬
 中山 功一 廣友 雅徳
 山口 暢彦
 講師
 大月 美佳
 助教
 上田 俊 杉町 信行
 前田 明子

■ 化学部門

教授
 ○海野 雅司 大石 祐司
 大渡 啓介 鯉川 雅之
 高椋 利幸 竹下 道範
 富永 昌人 花本 猛士
 山田 泰教 長田 聡史
 矢田 光徳
 准教授
 梅木 辰也 江良 正直
 川喜田 英孝 坂口 幸一
 成田 貴行 藤澤 知績
 森貞 真太郎

助教
 磯野 健一 小山田 重蔵
 米田 宏

■ 物理学部門

教授
 青木 一 ○河野 宏明
 杉山 晃 鄭 旭光
 船久保 公一
 准教授
 石渡 洋一 岡山 泰
 高橋 智 橋 基一
 房安 貴弘 真木
 山内 一宏

■ 機械工学部門

教授
 上野 直広 佐藤 和也
 張 波 辻村 健
 寺本 顕武 ○萩原 世也
 服部 信祐 松尾 繁
 宮良 明男
 准教授
 泉 清高 大島 史洋
 仮屋 圭史 カーンMDイスラム
 塩見 憲正 住 隆博
 武富 紳也 只野 裕一
 橋本 時忠 長谷川 裕之
 馬渡 俊文 森田 繁樹
 講師
 石田 賢治
 助教
 佐藤 善紀 椿 耕太郎
 林 喜章

■ 電気電子工学部門

教授
 大石 敏之 大津 康德
 嘉数 誠 後藤 聡
 ○田中 徹 豊田 一彦
 古川 達也 村松 和弘
 杉 剛直
 准教授
 伊藤 秀昭 猪原 哲
 木本 晃 佐々木 伸一
 田中 高行 堂蘭 浩
 西山 英輔 原 重臣
 福本 尚生 山岡 禎久
 助教
 三沢 達也

■ 都市工学部門

教授
 伊藤 幸広 大串 浩一郎
 小島 昌一 日野 剛徳
 井嶋 克志 ○帯屋 洋之
 柴 錦春 三島 伸雄
 山西 博幸
 准教授
 猪八重 拓郎 押川 英夫
 中大窪 千晶 李 海峰
 ウォンタナスストーン 後藤 隆太郎
 ナルモン
 平瀬 有人 宮原 真美子
 講師
 根上 武仁 三島 悠一郎
 助教
 測上 貴由樹

■ 海洋エネルギー研究センター

教授
 池上 康之 石田 茂資
 木上 洋一 光武 雄一
 准教授
 有馬 博史 今井 康貴
 村上 天元 松田 吉隆
 助教
 安永 健 森崎 敬史
 シリニバサムルティ
 シャラ

■ 総合分析実験センター

准教授
 兒玉 宏樹

■ 総合情報基盤センター

教授
 堀 良彰
 准教授
 大谷 誠 日永田 泰啓
 助教
 江藤 博文

■ シンクロトン光応用研究センター

教授
 郭 其新 高橋 和敏
 准教授
 東 純平
 助教
 今村 真幸 齊藤 勝彦
 山本 勇

○…各部門長

時代のニーズと共に発展する理工学部2021

皆本 晃弥（副学部長：教育担当）

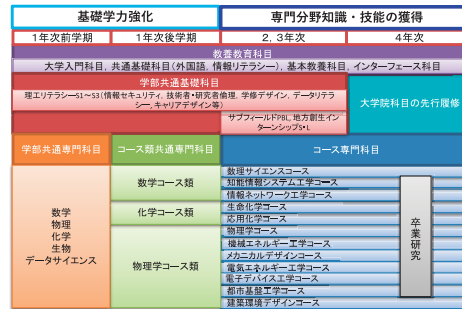
週刊ダイヤモンド2018年8月25日号によれば、1989年における世界時価総額ランキングの上位50社中、日本企業は32社で、トップ5はすべて日本企業でした。ところが、2018年には上位50社中1社（トヨタが35位）だけとなり、上位5社は米国企業のGAFAM（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフト）となりました。中国のアリババやテンセントもそれぞれ7、8位につけています。これらの企業はデータを積極的に活用し、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進してきた企業です。データサイエンスの重要性に一早く気が付いた企業とも言えるでしょう。

順位	企業名	時価総額 (億ドル)	国名
1	NTT	1638.6	日本
2	日本興業銀行	715.9	日本
3	住友銀行	695.9	日本
4	富士銀行	670.8	日本
5	第一勧業銀行	660.9	日本

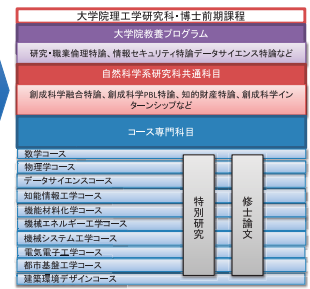
順位	企業名	時価総額 (億ドル)	国名
1	アップル	9409.5	米国
2	アマゾン	8800.6	米国
3	アルファベット	8336.6	米国
4	マイクロソフト	8158.4	米国
5	フェイスブック	6092.5	米国

週刊ダイヤモンド 2018年8月25日号

【地域創生の中核となる人材育成】



【地域創生を牽引するニューリーダーを育成】



佐賀大学データサイエンス教育プログラム

このような状況の中、2019年4月に、佐賀大学理工学部は理工学科1学科の12コースに、工学系研究科は理工学研究科となり理工学専攻1専攻の10コースになりました。大学院には、データサイエンスコースが設置されましたが、これは滋賀大学と並んで日本初のことでした。そして、2021年4月には理工学研究科に博士後期課程が設置されました。

日本が再び輝くためには、データ活用に基づく「データ駆動型社会」の推進が欠かせません。そのため、政府の「未来投資戦略2018」や「AI戦略2019」ではデータ教育の重要性が謳われており、特に、「AI戦略2019」では、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」は「数理・データサイエンス・AI」であり、すべての国民がこの力を育み、あらゆる分野で活躍することが期待されています。これに応えるため、佐賀大学では2021年度から全学的に「佐賀大学データサイエンス教育プログラム」（以下、DSプログラムと略す）を開始しました。理工学部では、2019年度からデータサイエンス教育を実施してきましたが、その内容を見直し、必修科目だけでDSプログラムに対応できるようにしました。これにより、2021年度入学生からは理工学部卒業生全員がDSプログラムを修了します。

あらゆる分野で活躍するには、他分野の理解や教養も欠かせません。そのため、学部では「サブフィールドPBL」、大学院では「創成科学融合特論」、「創成科学PBL特論」と分野を超えた教育を実施するとともに、学部における教養教育に加え、大学院でも「大学院教養プログラム」を実施しています。また、学部では「地方創生インターンシップ」、大学院では「創成科学インターンシップ」を実施し、主に地元企業で職場体験もできるようにしています。

このような時代のニーズに対応した新しい教育により、理工学部や理工学研究科の卒業・修了生が地域創生の中核となり「データ駆動型社会」構築の一翼を担うことを期待しています。

理工学部（理工学研究科）の研究事例等の紹介

佐賀大学は、2018年4月に教育研究院を組織し、教員がより柔軟で横断的な教育研究活動が行えるように、教教分離（教員組織と教育組織の分離）を行いました。教員組織は、3つの学域で構成され、効率的な組織運営のため7つの学系等が設置されています。教員は教育研究院の何れかの学域・学系に所属し、各々の専門分野に応じて必要とされる学部、研究科等に配置されています。理工学部の教員は、「自然科学域・理工学系」に所属して教育研究活動を行い、教育組織（理工学部及び理工学研究科修士課程・理工学研究科博士後期課程等）に配置され、7部門で学生の専門教育を行っています。

理工学部は「地域創生の中核となる人材」を育成するため、2019年4月からこれまでの7学科を1学科として、12の専門コースを設置する学部に生まれ変わりました。大学院は、これまでの工学系研究科博士前期課程を再編し、理工学研究科理工学専攻になりました（1専攻10コース）。1専攻にすることで専門分野の枠を越えた連携を行い、高度な知識・技術を身につけて社会で活躍できる人材を養成するためです。2021年4月には、高度な専門的知識と論理的思考力を持ち、社会のグローバル化に対応できる実践力に富む優れた人材を輩出するために、工学系研究科博士後期課程は理工学研究科博士後期課程に改組されました。

前回の会報「菱の実 臨時号No.3（2021年2月1日発行）」では、理工学部の研究に関する特集号として、部門ごとに理工学部関係の先生方や学生（学部生・大学院生）の研究テーマや、特徴ある研究の事例紹介を執筆していただきました。これらの記事は、卒業して久しい同窓生が求めていた理工学部関係の情報でもありましたので、今回も特徴ある研究の事例紹介の執筆をお願いしました。卒業生としては、理工学の幅広い分野をカバーする柔軟な教育研究が実施され、産業界の期待に応えられるような大きな研究成果が生み出され、産業界と積極的に共同研究や受託研究が進められることを期待するとともに、少しでも母校を応援できるようになっていきたいと思います。

（菱実会広報担当）

数理部門（旧数理科学科）

■対称性と偏微分方程式

梶木屋研究室では、偏微分方程式の解の対称性および非対称性の研究を行っています。

$$\Delta u + |x|^\lambda u^p = 0, u(x) > 0 (x \in \Omega), \quad u(x) = 0 (x \in \partial\Omega) \quad (1)$$

この方程式はHénon方程式と呼ばれています。Hénonは球状星団を記述する方程式としてこの方程式を提唱しています。しかし私は、球状星団に興味があるわけではありません。純粋に数学的興味で研究しています。ここで、 $\Delta = \sum_{k=1}^N \partial^2 / \partial x_k^2$ はラプラシアンです。 $\lambda > 0, p > 1$ とし、 Ω は \mathbb{R}^N の有界領域とします。 $\partial\Omega$ は、 Ω の境界です。 Ω を球の内部とするときに、ラプラシアンの固有値問題

$$-\Delta u = \lambda u (x \in \Omega), \quad u(x) = 0 (x \in \partial\Omega) \quad (2)$$

を考えます。このとき第1固有関数は球対称関数になります。 Ω を楕円の内部とするときは、第1固有関数は楕円の対称性を持ちます。すなわち、第1固有関数は領域の対称性を受け継ぎます。第1固有関数はレイリー商 $R_0(u)$ の最小値を取る関数として特徴付けできます。

$$R_0(u) = \frac{\int_{\Omega} |\nabla u(x)|^2 dx}{\int_{\Omega} u(x)^2 dx}$$

Hénon方程式（1）に対しても同様にして、非線形のレイリー商 $R(u)$ を考えることができます。

$$R(u) = \frac{\int_{\Omega} |\nabla u(x)|^2 dx}{\left(\int_{\Omega} |x|^\lambda |u(x)|^{p+1} dx \right)^{2/(p+1)}}$$

方程式（1）の解で $R(u)$ を最小にするものを最小エネルギー解と呼びます。 Ω を球の内部とするとき、Smets-Willem-Suは、 λ が十分大きければ最小エネルギー解は、球対称にならないことを証明しました。これは、ラプラシアンの第1固有関数の場合と異なることです。方程式が球対称性を持つにもかかわらず、対称でない解が現れるのです。もちろん、球対称解も存在します。では、 Ω が立方体の場合は、どのようになるのでしょうか。この場合、 λ が十分大きいとき、最小エネルギー解は立方体群不変ではありません。立方体群は立方体をそれ自身に移す行列式1の 3×3 の直交行列の集合のことです。なぜ、直交行列を考えるのでしょうか。それは、直交行列が方程式（1）を不変にしているからです。正確には、 $u(x)$ が方程式（1）の解ならば、直交行列 A に対して、 $u(Ax)$ も方程式（1）の解になるからです。では、立方体以外の正多面体ではどうなるのでしょうか。 Ω を1つの正多面体の内部とするとき、 λ が十分大きいとき最小エネルギー解は、その正多面体群の対称性（不変性）を持ちません。これは、すべての \mathbb{R}^N の正多面体に対して成り立ちます。3次元空間の正多面体は図に表した5つの立体（プラトン立体）です。4次元空間には、ちょうど6個の正多面体があり、それらは5、8、16、24、120、600面体です。 $N \geq 5$ の各 \mathbb{R}^N には、ちょうど3個の正多面体があります。それらは、3次元空間の正4面体、立方体、正8面体を N 次元空間に一般化したものです。半正多面体についても最小エネルギー解は非対称になります。たとえば、 Ω をサッカーボールの内部とします。 λ が大きいときに最小エネルギー解は、サッカーボール群（正20面体群）不変ではありません。サッカーボールは、数学用語では、切頂20面体と呼ばれます。正20面体の頂点をうまく切り飛ばすことによりできています。うまく切り取ると、正五角形と正六角形がうまく具合に並んだ形、サッカーボールになります。この問題のおもしろい点は、方程式が対称性を持つにもかかわらず、非対称な解が現れることです。また分岐理論においては、対称な解から非対称な解が分岐することなどが研究されています。

（文責：梶木屋 龍治）



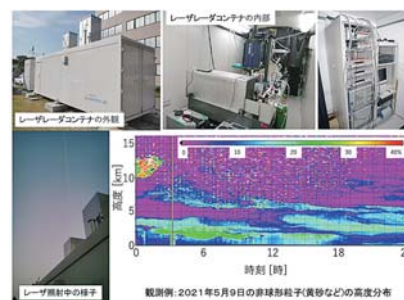
図 3次元空間の正多面体

情報部門（旧知能情報システム学科）

■レーザ光で探る佐賀大学上空の黄砂

理工学部情報部門の奥村・新井研究室では、2011年3月から、環境省、JAXA、国立環境研究所、気象庁気象研究所からの委託を受け、人工衛星（いぶき、いぶき2号）搭載センサを用いた温室効果ガス観測のデータ検証プロジェクトに参画しています。

そのプロジェクトの一環で、レーザレーダという観測機器で、雲、霧、火山灰、黄砂、PM2.5などの大気中のエアロゾル（浮遊粒子）の高度方向の分布を観測・解析しています。この機器は、近赤外線と緑色の2色の強いレーザ光パルスを上空にまっすぐ打ち上げて、その反射光から、エアロゾルの存在高度や濃度、形状を推定することが可能です。このレーザ光は、厚い雲に遮られなければ、飛行機の飛行高度の約3倍に当たる地上約30km以上の成層圏にまで到達する非常に強い光ですので、夜間であれば、私たちもその緑色の鮮やかな光を肉眼ではっきりと視認することが可能です。（時折、市民の皆さんから警察に通報があるそうですが…）



この10年間に渡る観測結果から、アフリカ北部エリトリアのナブロ火山の大噴火起源と予想できる火山灰や、桜島起源の火山灰、毎年大陸から偏西風に乗って飛来してくる黄砂やPM2.5の様子を視覚的に捉えることに成功してきました。

今年も、特に春先の3月～5月にかけて、黄砂やPM2.5と考えられる観測結果が得られましたので、その一例をご紹介します。掲載している写真は、上段左からレーザレーダが格納されているコンテナの外観、レーザ照射装置と受光望遠鏡、信号処理装置で、下段左は、上手に写真撮影ができませんでしたがレーザ照射中の様子、下段右は本年5月9日の1日分の非球形粒子の高さ分布です。通常、雨雲は水蒸気や過冷却水でできているため、粒子の形状は球形に近くなりますが、火山灰、黄砂やPM2.5は、非球形の凸凹した形状をしている場合が多いため、大気中のエアロゾルの非球形粒子の比率が大きくなります。非球形粒子の層が何層もあって、時間が経つに連れて徐々に高度を下げて地上に付近に降りてきている様子が見られると思います。

私たちの研究室は、今後もこうした地道な観測を通じて、地球規模の気候変動解明の一翼を担っていきたくと考えています。

（文責：奥村 浩）

化学部門（旧機能物質化学科）

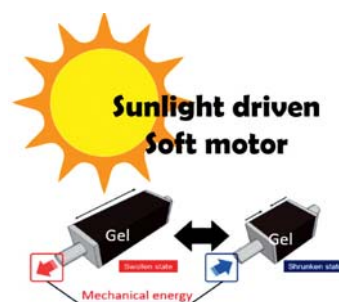
■生体の自律運動システムを模倣したソフトモーターの開発

生体内では心臓の自己振動運動や細胞間通信におけるカルシウムシグナル等、多くのリズムカルな活動が観察されています。そのような活動は、生物システムに無くてはならないものであり生命らしさを示す現象です。このようなリズムカルな運動や機能を有する材料の開発と研究は、生体システムの理解を促すとともに、システムの開発にとっては今までにない新しいコンセプトを提供します。

振動システムは、私たちの身の周りに多く溢れていると同時に、エンジンのピストン運動やカム機構による往復運動等に見られるように、産業の核を担う重要なテクノロジーとして人類の飛躍的な文明発展にも貢献しています。人類が利用する振動システムは、例えば自動車のエンジンのように主に金属等のハードマターから構成されていますが、生物を構成している材料であるソフトマター（高分子、ゴム、界面活性剤、ゲル、コロイド、液晶）から構成される振動システムは、工業的に利用された例が今までありません。それはソフトマターを利用すると主にエネルギーの変換効率がすこぶる低下し、その質も低下することに起因しています。生物では、糖の化学エネルギーを筋力の力学的エネルギーに高効率で変換が可能ですので、現時点で人類はソフトマターを上手に使いこなせていないことになります。

私たちの研究室では、生体内や工業的に利用されている振動システムの原理に基づいて、ソフトマターを利用した今までにない自律運動システムの構築を目指しています。例えば細胞が膜内外の状況により、膜物性を変えることで自律的な活動を保っていますが、これをヒントに、高分子膜を利用したフィードバックシステムを考案し、自律拍動する高分子カプセルを調製することに成功しました。このカプセルは現時点で「熱を認知して拍動する高分子カプセル」、「糖を感知して拍動するカプセル」へと発展を遂げています。また一方で、定常光で拍動するハイドロゲル（水を多く含む高分子コロイド）の創成にも取り組んでいます。光エネルギーは、物質供給のできない状況でもエネルギーのやり取りができるので、物質の供給手段がない・できない場所やイベントでの活用が可能です。応用例としては、人間によって物質が供給できない極限空間や閉鎖空間（低温地域、工場の高湿場所、宇宙空間、砂漠）や災害時の電源や供給燃料の供給が不可能なイベントで作動できる「エンジン」へ発展できると考えています。

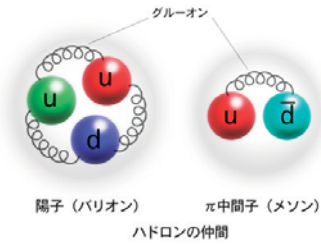
（文責：成田貴行）



物理学部門（旧物理科学科）

■素粒子論に基づくハドロン・クォークの研究

佐賀大学では素粒子分野の研究室が活発で、その1つがハドロン・グループです。万物を構成する原子の中心にある原子核は、陽子と中性子の間に湯川秀樹によってその存在が予言された中間子が飛ぶことで核力という力が働きまとまっています。陽子や中性子の仲間の粒子をバリオンと呼び、バリオンと中間子を総称してハドロンと呼びます。ハドロンはクォークという粒子からなっていますが、クォークは何故か単独では取り出せません。しかし、宇宙初期の高温状態や中性子星とよばれる超高密度天体の内部では、ハドロンが溶けたり、つぶれたりしてクォークが密集する状態になっている（あるいはなっていた）と考えられています。また、そのような状態が加速器を使った高エネルギー原子核衝突実験によって生成されていると考えられています。ハドロン・グループでは、この謎に満ちたクォークやクォークから構成される新しい物質や天体を研究しています。



ハドロン研究室では、院生の教育でも大きな貢献をしており、博士課程を含む多くの大学院生を指導してきました。例えば、最近では、橋基準教授が本学修了の壽崎悠貴氏と共著論文を歴史のある国際学術誌Acta Physica Polonicaに発表しています。この研究は、中性子星の内部がタマネギのように層を成していると考えられている点に着目したもので、壽崎氏と橋氏は、電子の常伝導状態と超伝導状態の接合面で起きるアンドレーエフ反射とよばれる興味深い物性現象を、クォークおよびハドロンの世界に適用し解析を行いました。今後の目標は、ここでの研究成果を中性子星の内部構造を知る手立てにすることです。

湯川秀樹の時代、素粒子が実用的な役に立つとは誰も思いませんでしたが、今では素粒子によるがん治療も行われています。大学院生の澤村駿氏、田浦清太郎氏、徳村勇輝氏は、農学部宮本英揮研究室の研究テーマの一つである「宇宙線中性子を利用した土壌水分量計測システム（COSMOS）」に興味を持ち、その理論的側面を明らかにするための研究を開始しました。このように、素粒子ハドロン分野にとどまらず、他の分野へまたがる分野横断的研究にも意欲を持って取り組んでいます。

重力波の観測が盛んになり、中性子星などハドロンやクォークからできていると思われる天体の情報もどんどん増えてきています。これらの情報から、新しい構造の物質の存在の可能性も導き出す事が可能です。ハドロン物理学は新しい発展期に入ったと言えます。（文責：河野宏明）

機械工学部門（旧機械システム工学科）

■実習工場とともに培ってきた歯車加工技術

大島研究室では、実習工場と協力しながら、これまで「円筒歯車および円筒ウォーム歯車の歯面修整に関する研究」、「フェースギヤの設計・製作に関する研究」および「ギヤスカイピング用円筒型カッタの設計・製作に関する研究」などを通して歯車加工の効率化や歯車のより静粛な運転を目指し、研究に取り組んでいます。最近の研究としましては、「ギヤスカイピング用円筒カッタの設計・製作に関する研究」に取り組んでおり、これまで歯車の加工法は、ホブというネジ状の工具を用いて連続的に加工するホブ切りという方法と、ピニオンカッタと呼ばれる歯車型のカッタを用いて間欠的に歯切りするギヤシェーパーと呼ばれる方法のどちらかで加工されてきましたが、歯車型のカッタを傾けることにより、相対速度を生成し、歯車型のカッタでも連続的に歯切りができる「ギヤスカイピング」という方法が最近実用化されるようになってきました。ただし、この方法は、工具の摩耗が従来の方法に比べて極端に早く、カッタの交換の際に同じ歯車を作ることができなくなるなどの問題がありました。本研究室では、カッタの形状を従来型の円すい型から円筒型とすることで摩耗してもすくい面を研ぎ直せば同じ形状が得られるようにしたうえで、従来型と比べ少し複雑となる円筒型カッタによる歯切り方法を示すとともに、歯切りの際に問題となる干渉などの不具合の解析を行い、「ギヤスカイピング」のさらなる実用化に向けて尽力しているところです。



また、佐賀大学実習工場では、令和元年からCIREnものづくり研究分科会と連携し、「ものづくり技術相談室」を開設し、企業からのものづくりに関する相談に対応しながら、本年度は「機械工作実習を通して学ぶリカレント教育プログラム（仮）」といった機械工学に興味を持った企業の方向けの学び直し教育も計画しております。

また、機械工学部門としては、理工学部で行われている「ものづくり技術者育成講座」におきまして、本年度は「流体工学コース」と「機械設計コース」の2コースを県内企業にお勤めの方を対象に開講し、今後は「材料工学コース」、「機械力学・制御コース」、「熱工学コース」と継続していく予定となっております。

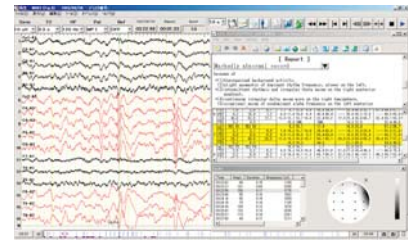
コロナ禍で不便な生活を強いられておりますが、このような時こそ卒業生や企業の皆様により頼りにされるような佐賀大学実習工場および機械工学部門を構築し、新しいものづくりの拠点となれよう頑張っていきたいと思っております。（文責：大島史洋）

電気電子工学部門（旧電気電子工学科）

■脳波自動判読システムの開発

ヒトの体からは、様々な電気活動を計測することができます。このうち神経細胞間の信号のやり取りで発生するシナプス後電位を、頭皮上から記録したものが脳波です。脳波は、MRIやPET、MEGなど他の脳機能計測手段と比べて簡便で安価に利用可能です。特に安静閉眼覚醒時の脳波は脳機能状態の評価に有用で、てんかんや意識障害の臨床診断では必須の検査項目となります。

通常、脳波の判読は熟練した専門医によって行われますが、多くの知識と経験を必要とする複雑な作業であることから、コンピュータによる自動化は困難でした。我々の研究室では、長年にわたる脳波解析の研究成果を積み重ねていき、専門医と等価な判読レポートまでを作成する脳波自動判読システムを開発しました（図はシステムの実行画面）。本システムは、数十分程度の脳波記録波形（図左）から各判読項目を数量的に評価（図右中央）すると共に、それらの組み合わせから脳機能の異常に関連した特徴を抽出します。出てきた数値だけでは分かりづらいため、そこから文章による判読レポート（図右上）や異常波の頭皮上分布（図右下）を作成します。今日では、脳波自動判読システムは脳波計メーカーよりソフトウェアとして市販されるに至り、国内だけでなく海外での展開も視野にシステムの拡充を図るために研究を続けています。



脳波自動判読システムの実行画面

脳波自動判読システムの開発は、医学分野の研究者と工学分野の研究者による共同研究の賜物です。電気電子工学部門は、2019年度に新設された先進健康科学研究科の生体医工学コースの運営に深く関わっています。本コースは、1998年に発足した工学系研究科の生体機能システム制御工学専攻に始まり、そこから2010年に改組された先端融合工学専攻の医工学コースへと発展し、現在へと続いています。生体医工学分野に限らず、様々な分野と繋がって幅広く研究活動を行っているのは、電気電子工学部門の大きな特徴です。

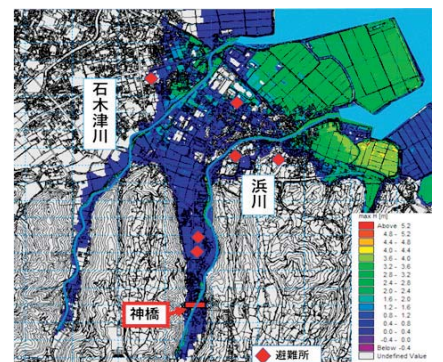
現在は脳波自動判読システムで培った技術を基盤として、集中治療室（ICU）での治療の予後評価をサポートするシステム開発や、認知症の早期診断を目的としたバイオマーカーとしての脳波の利用を目指して研究を行っています。脳波の記録装置（生体アンプ）は年々高品質かつ安価になっていて、これも電気電子工学分野の技術発展のおかげです。近い将来、脳波による脳機能診断の裾野は広がっていき、もっと生活に身近な存在になると予想しています。（文責：杉 剛直）

都市工学部門（旧都市工学科）

■低平地の水災害リスクに関する研究と地域の防災・減災研究の拠点形成

2016（平成28）年熊本地震、2017（平成29）年九州北部豪雨、2018（平成30）年西日本豪雨、2019（令和元）年佐賀豪雨と東日本台風、2020（令和2）年九州豪雨など、近年、毎年のように九州では自然災害が多発し、また、その威力も増大しているため、甚大な被害を受ける地域が増えています。佐賀県は梅雨や台風期の水・土砂災害、活断層を中心とした地震など自然災害のリスクが極めて高いです。さらに大都市への人口の一極集中により県内では著しい人口減少が進み、なおかつ少子高齢化により地域防災力が劣化しつつあります。

佐賀大学流域水工学研究室（大串研究室）では、佐賀平野、特に低平地の水災害リスクに関する研究を進めています。2019（令和元）年8月の佐賀豪雨では土木学会水工学委員会災害調査団に加わり、被災後の現地調査や当該地区の地形特性、水理特性、地域の歴史などを踏まえた調査・分析を他大学や他研究機関と共に研究室学生も一緒に行いました。その調査報告書は土木学会のHPにて公開されています。（<https://committees.jsce.or.jp/report/node/208>）。また、現在もその関連の研究が進められています。レーザープロファイラーによる地盤高データ取得や非構造格子によるきめ細かな氾濫数値シミュレーション、GISによる可視化など、近年の測量技術や解析技術の向上により、高精度で現象を再現できつつあります。また、今後の災害外力の増大に対してどのような対策が効果的かについても検討できるところが数値シミュレーションの醍醐味でもあります。現実に起こったこと、また、これから起こり得ることを最新の技術で解析し、その成果を発信することで地域に貢献しています。



1/100降雨浜川・石木津川氾濫解析結果

また、関連する都市工学部門の教員と共に2021（令和3）年度から佐賀大学SDGsプロジェクト研究所地域防災減災研究プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは、地域の様々な防災・減災に関わる課題の解決のため、地域と連携して取り組むこととしており、地域の防災・減災研究の拠点形成に貢献しています。

（文責：大串 浩一郎）

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターの活動

シニアURA/農学部招へい教授 平山 伸*1

佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターには4名のURA*2が在籍し、これまでの企業経験や産学連携の経験を活かし、『①研究戦略推進』『②産学連携推進』『③研究推進支援』の3つを柱として業務を遂行しています。①では学内研究情報の把握・分析、企業情報の把握・分析、知財関連活動、広報活動、ベンチャー創出支援等を行っています。また、②では共同研究・受託研究の橋渡し、県内各地の地域連携プロジェクト参画支援、研究プロジェクト企画立案等を実施しています。更に、③では科研費や競争的研究資金の申請支援を主な業務として取り組んでいます。これらの取り組みの中で、国の戦略や地域のニーズ、国連のSDGs等を踏まえ、本学の研究戦略として、1)地域の文化・教育を支える領域、2)低コスト型インフラ整備領域、3)持続可能なエネルギー・有価物の生産領域、4)健康長寿社会貢献領域、5)地域産業を支える領域、及び6)環境改善領域(有明海等環境改善技術)の6つの研究領域を掲げ、これらの領域について研究力強化を図っています。



佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターURAの活動区分

一方、研究成果の普及・活用を通じた社会貢献、即ち、産学連携の活動は、国立大学法人法にも謳われ、教育、研究に続く第三の柱と位置付けられています。この産学連携は、企業、行政等のステークホルダーにとって、優先事項になり難いことが経済産業省の調査から明らかとなっていますが、その懸念を払拭していく手段こそが、地元企業や自治体からの知的財産(知財)や技術相談等を通じ、頼りになるシンクタンクになる事であると考えています。

特に、佐賀地域には知財力が弱い企業が多いことは否めず、結果、メーカーになりきれない企業が多いことが地域課題となっていることを鑑み、本センターでは知財相談に加え、大学院修士課程の知財教育の支援やFD講演会を通じた知財教育の強化等にも注力しています。これらの取り組みによる産学連携商品としては、『規格外のブドウを使ったドレッシング』『よ〜うかんがえる合格ようかん』『アサヒフットケアシューズ』等があり、詳細は当センターのNEW LETTERや活動・成果報告書2020(令和2)年度にも掲載していますので、ご一読頂ければと存じます。このような産学連携商品には、特許、意匠、商標等の知財が排他権や製品のブランド化に重要な役割を果たし、その事例が増えつつあります。佐賀市内で販売されている食材で『スマートやさい』と銘打った商標を活用してブランド化しているケースはその事例と言えるでしょう。これは佐賀大学発ベンチャーで、今や東証一部上場企業に成長した(株)オプティム*3の例になります。このように、知財を製品にどのように組込んでオリジナリティーを出しつつ付加価値を高めていくかが、地元企業がメーカーへ脱皮・成長していく原動力になると考えられます。佐賀にはこのような良い事例がありますので、横展開していくことこそが、佐賀地域の活性化に直結する近道だと考えられます。

佐賀大学は国立大学86校の中で運営交付金規模30位前後の中規模総合大学ですが、未来を拓く知財支援が活発な頼りになる大学へ進化中であり、今後もこの動きを加速・拡大していきます。是非、リージョナル・イノベーションセンターにお越し頂き、地域の発展に資する大学として取り組みの輪を共に広げていきましょう。

*1 1985年3月佐賀大学農学部卒業、1987年3月筑波大学環境科学研究科修了、同年4月三菱重工業(株)入社、2000年3月筑波大学博士(農学)取得、2017年6月三菱重工業(株)総合研究所退社、同年10月佐賀大学に勤務(URA)、2018年7月農学部招へい教授就任、現在に至る。数十件の特許出願・取得、数百件の特許指導、特許を元にした大手企業との共同研究を経験。

*2 URAとはUniversity Research Administratorの略で、研究活動の企画・運営・成果の発信まで、多種多様な業務に携わり大学全体の最適化を担う新しい職種です。

お問合せ・相談窓口はこちらまでお願いします。<http://www.suric.saga-u.ac.jp/contact/>

*3 国内で約2,900社の大学発ベンチャーのうち東証一部上場を果たした13社の一つで、大学内に本店を構えた国内初の事例となります。

第9回佐賀大学ホームカミングデーを開催

去る2020（令和2）年11月14日（土）14時より16時半まで、本庄キャンパスの理工学部6号館2階多目的セミナー室において、第9回佐賀大学ホームカミングデーが開催されました。ホームカミングデーの目的は、佐賀大学の卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、学友との再会と交流を深め、今後の母校へのご理解とご支援を賜ることです。対象者は、本学の全ての同窓生及び名誉教授です。今年は、コロナ禍の中、例年より出席者は少なく、名誉教授は13名、同窓会関係者は15名（そのうち理工学部同窓会会員の出席者は7名）でした。また、例年開催されている懇親会は中止となり、代わりに佐賀大学役員との懇談会が開催されました。

以下、第9回佐賀大学ホームカミングデーの流れを簡単に紹介します。

渡孝則副学長の司会で開会し、役員紹介のあと、兒玉浩明佐賀大学長の歓迎の辞とスライドを使って懇切丁寧な大学の近況報告がありました。内容は、数字で見る佐賀大学、令和元年度佐賀大学決算の概要、新型コロナウイルス感染症への対応、入学志願者獲得に向けた取り組み、佐賀大学のこれからのむけてのビジョン2030など、分かりやすくまとめられた説明でした。引き続き、来賓を代表して川副操佐賀大学同窓会会長の挨拶がありました。

大学の研究紹介としては、「会社を立ち上げる前と後の裏話～クラウドファンディングやコンテストの本当の意味とは～」という題目で、株式会社山城機巧代表取締役社長の山城佑太氏の講演があり、続いて「研究成果の社会実装に向けた取り組み～人工知能／情報サービス／フワットを例に～」という題目で、佐賀大学理工学部准教授の中山功一氏の講演がありました。山城氏は理工学部同窓会の現役員でもあります。また、中山氏は山城氏の研究所属学科は異なりますが、ベンチャー企業の指導教官でもあります。中山氏は、学生に「知る→理解する→作る→使う→役に立つ」をモットーにして深く学ぶように、そして若者が未来を創るよう指導されているようで、のびのびした学生の指導方法に深い感銘を覚えました。

その後、佐賀大学校友会学生生活動支援事業奨励金等受給者による報告会がありました。報告者は、教育学部学校教育課程の國弘貴之君と、芸術地域デザイン学部の首藤舞央梨さんで、それぞれアメリカのスリッパリーロック大学とリトアニアのヴィータウタス・マグナス大学への海外派遣短期留学は非常に貴重な経験であったとのことでした。ただ、コロナ禍のため、帰国に苦労されたとのことでした。二人の今後の活躍を期待したいですね。

閉会后、理工学部8号館北側玄関にて記念撮影がありました。その後、佐賀大学役員との懇談会が開催されました。

2021年度のホームカミングデーは、2021（令和3）年11月6日（土）に本庄キャンパスで開催予定です。恩師や同期仲間とも会って近況報告しあえる絶好の機会です。奮ってご参加下さい。

（文責：穂屋下 茂）



学長による大学の近況報告



中山功一氏の講演



2020年度 理工学部と理工学部同窓会との意見交換会を開催

2020（令和2）年11月11日（水）に菱の実会館多目的室において、理工学部と理工学部同窓会との意見交換会を開催しました。本会は2012（平成24）年11月に開催して以来、今回で9回目になります。

従来通り、理工学部の部門長の先生方にもご出席いただきましたのですが、コロナ禍の中、三密防止のため、ソーシャルディスタンスを保つため、やむなく最小限の人数で行うことになりました。さらに部屋のドアや窓は開放し、全員マスク着用で開催しました。出席者は、大学側が理工学部長、副学部長（3名）及び事務長の計5名で、同窓会側からは、理工学部同窓会会長と副会長等（5名）の計6名でした。

島公二武副会長の司会で開会し、はじめに主催者を代表して穂屋下茂同窓会会長が挨拶を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止策のため、大学の先生方は突然全ての講義がオンライン授業になってしまって大変なご苦労されたことを労い、理工学部同窓会が楠葉同窓会より独立した21年前の当時を振り返りつつ、今年から同窓会の役員も増え、役割担当を決めて新しい同窓会活動の展開を図ろうとしていた矢先に新型コロナ騒動で足踏み状態になってしまったことなどの話がありました。

続いて、豊田一彦理工学部長のご挨拶がありました。今年は、コロナ禍の中で、開講日がなかなか決まらず調整が大変であったこと、オンライン授業のコンテンツ作成が大変だったこと、多くのコンテンツができたので今後も活用できること、休講しなくてもこのコンテンツを活用し授業ができるので出張がしやすくなったこと、後期は対面授業も取り入れて授業をするようにとの達しがあるので学生の反応を見ながら授業を進める予定であるなどの話がありました。

出席者の紹介は、同窓会側出席者から順番に卒業学科や担当業務等自己紹介を行いました。大学側出席者には、大学の講義や研究などに関わる現状等の報告を兼ねて自己紹介をお願いしました。話のいくつかを紹介しますと、理工学部の先生の数が減ってきていて、理工学部全体としてどうしていくべきか難しい状態になってきていること、同窓会より菱実会・理工学部広報賞としてのクオカード贈呈は学生も喜び、理工学部の広報活動に役立っていること、就職を心配していたが希望者は100%就職できたこと、理工学部の将来像（例えば、2030年）をどうするかプロジェクトを推進していること、動画を作成してみてユーチューバーは大変だと分かったこと、15回分の授業動画を1週間で作成できるようになったこと、対面授業とのバランスを取りながら授業を進めていきたいことなどのコロナ禍の中でのいろいろな対策や得られた成果の紹介がありました。

出席者の自己紹介が一通り終わったあと、同窓会からの理工学部に関係する事業を提示して意見交換を行いました。

理工学部長から地域連携壁プロジェクトの企画案の説明があり、同窓会への資金援助協力依頼がありました。同窓会としては、明確な見積もりと援助額を提示していただければ、前向きに検討したい旨をお伝えしました。

コロナ禍の中、理工学部と同窓会との意見交換会の開催は危ぶまれましたが、無事開催することができました。直接意見交換を行って、1時間半が短く感じられるほど話はずみ、非常に有意義な意見交換会だったと思います。

（文責：山口智啓）



理工学部同窓会会長の挨拶



理工学部長の挨拶

2020年度理工学部キャリアデザインセミナーの実施

2020（令和2）年度は、コロナ禍の中、大学の前期授業は全てオンライン授業（ライブ配信、オンデマンド配信など）で、後期は対面授業とオンライン授業で実施されました。そのような状況の中で、理工学部キャリアデザインセミナーは、ほとんどの部門（旧学科）で従来通り実施していただきました。ただし、三密を避けるため、さらに講師の移動負担もなくす必要がありましたので、一部を除き、ほとんどのセミナーはオンライン配信での実施になりました。大変な状況の中、講師を務めていただきました同窓生の皆様、またセミナーの手配や世話をいただきました先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、理工学部同窓会の活動の一環として、2020年12月4日、物理科学科のキャリアデザインセミナーに参加してみました。理工学部の教室に入るのは実に47年ぶり。セミナーは、教室での対面講演とオンライン配信講演で行われ、教室での聴講者は2名で、あとはオンラインでの聴講とのことでした。

パワーポイントを使った講演で、自己紹介・会社概要・会社の主力製品の紹介・就職のきっかけ・地場産業への就職の意義・就活中のこと・就活後のこと・学生時代にやれること・入社後のギャップなど、これから就職活動する学生には非常に参考になる内容だったと思います。講師は、地場産業への就職の意義について熱く語り、入社前とのギャップもあるが結果的には満足していて、自信にあふれていたのが印象的でした。

（菱実会学生支援担当部長：宮地幸夫）



2020年度理工学部キャリアデザインセミナー実施一覧

部 門	実 施 日	講 師	世 話 人
数 理	2021年1月14日(木) 13:00~14:00 Webexオンラインセミナー	白 谷 峻 氏 (数理科学科・2011年入学) 富国生命保険相互会社 法人サービス部団体数理グループ	半田賢司先生
情 報	2020年12月7日~13日 2021年1月14日~20日 オンデマンド配信	三 坂 隆 太 氏 (知能情報システム学科・2013年入学) 木村情報技術 AI事業部システム部	皆本晃弥先生
		藤 井 智 士 氏 (知能情報システム学科・2003年入学) 本田技術研究所 ライフクリエーションセンター 完成機開発室	
化 学	2021年1月14日(木) 14:00~16:00 オンラインセミナー	中 嶋 友 祐 氏 (機能物質化学科・2014年入学) セントラル硝子株式会社 宇部工場 工務部	竹下道範先生
		高 尾 真 瑠 美 氏 (機能物質化学科・2014年入学) 株式会社 大石膏盛堂 開発本部 製剤分析室	
物 理	2020年12月4日(金) 13:00~14:30 理工学部1号館318教室 対面講演とオンライン配信	大 藤 あ ゆ み 氏 (物理科学科・2010年入学) 株式会社AQUAPASS 営業技術部	河野宏明先生
	2020年12月23日(水) 16:20~17:50 勤務先からオンライン配信	古 賀 絵 美 氏 (物理科学科・2010年入学) 株式会社ジャパンセミコンダクター プロセス生産技術部	
電気電子工学	2021年1月5日(火) 13:00~14:30 Webexオンライン配信	江 頭 成 人 氏 (電気工学科・1980年入学) 久留米工業高等専門学校 制御情報工学科・教授	後藤 聡先生
		田 中 雄 樹 氏 (電気電子工学科・2009年入学) 大電株式会社電線事業部 技術部 機器技術課	
都市工学	2020年12月17日(木) 15:00~17:15 ライブ配信・ 後日ビデオ視聴可	村 山 恭 一 氏、他 (建設工学科・1982年入学) 村本建設株式会社 東京本社技術部	日野剛徳先生
		伊賀屋 豊 氏 (土木工学科・1987年入学) 佐賀県杵藤土木事務所 工務第二課	

* 機械工学部門では、2020年度は実施されませんでした。

校長先生として過ごした4年間

広島大学大学院人間社会科学研究所・教授

渡辺 健次 (物理・S62卒、物理学専攻・H1修了)

情報学が専門の大学教員として歩んできましたが、2016年に広島大学附属福山中・高等学校長の兼務を命ぜられ、2020年3月までの4年間は校長先生として中学校・高等学校の現場で過ごしました。着任後、自分の専門である情報学の知見が学校に活かせることに気づきました。まずは、毎年度始めに策定する学校経営計画に情報に関する内容を入れて、教職員に情報を意識させるようにしました。生徒たちには、始業式や終業式の挨拶で、情報学に関するトピックを紹介しました。国立情報学研究所が監修した仮面ライダーゼロワンを大真面目で紹介したのは、今でも語り草になっているようです。次に、情報科の専任教員を採用しました。他の学校に先駆けて動いたことで、優秀な若手教員を採用することができました。これで2025年以降の大学入学共通テストに情報が加わっても大丈夫でしょう。任期の最後の年には、クラウドサービスG Suite for Educationを導入しました。試験運用の後、全学年に展開したところで任期は終わりましたが、そのタイミングでコロナ禍が襲来。その後の休校期間中にG Suiteが活用されたとのことでした。

1989(平成元)年に大学院を修了して佐賀大学の助手に採用され、一時的に他大学に勤めたものの、2012年10月に広島大学に着任するまで、理工学部・工学系研究科の教員として経験を積みました。校長先生を務めるとは、佐賀大学時代には想像もしなかった未来でしたが、理工学部・工学系研究科で経験したことが支えになりました。厚く御礼申し上げます。



学生ベンチャーとしてできることを

佐賀大学大学院 理工学研究科・1年

浅川 泰輝 (知能・H29入)

私は学部4年(2020年)の10月に株式会社AS(アズ)を起業し、コロナ禍で苦勞されている飲食店経営者を応援するためのモバイルオーダーシステムを開発し、菱実会賞を頂きました。また、同年に佐賀大学より大学発ベンチャー認定の2号を頂き、現在も佐賀大学の学生として、地域事業の活性化に向けて全力を尽くしています。

2021年5月現在、未だに感染者の増加が収まらず、私が起業した当初よりも事態は日々深刻な状態が続いております。そのため、以前にも増して飲食店の休業要請や時短要請が行われています。とある佐賀市内の飲食店の経営者に話を聞いたところ、「様々な工夫や取り組みをしているが、中々売上をあげるの難しい」「屋外イベント等、普段とは違う営業もしたいと思っているが、社会情勢やお客さんの声を聞くと、それも難しいのではないかと、という声が多い」などといった意見が多いのが現状です。

このような状況を改善すべく、現在私は飲食店や商店街の関係者と意見を交わしあい、モバイルオーダーシステムを始めとした打開策を、日々考えております。また、近年「DX化」という言葉をよく耳にします。これに飲食店の方々も積極的に動かれています。しかし、「なにかから始めていいかわからない」という声が多いのが現状です。これを解決するため、お店のホームページ作成、SNS運用等の個別サポートなども行っております。

まだまだ私にできることはないかと自問自答する毎日ですが、会社名の“AS”に込めた思い(“as a student”学生として、“as a member of the community”地域社会の一員として)をモットーにこれからも日々、努力を積み重ねていきたいと思っております。



第23回（2021年度）理工学部同窓会（菱実会）総会は開催中止

菱実会の総会・記念講演・懇親会の開催は、毎年9月の第1土曜日と決めておりますが、菱実会役員会（メール会議）におきまして、標記の通り、昨年度に続き今年度もやむ無く中止することになりました。会員の皆様におかれましては、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みての判断としてご理解いただきますようお願い申し上げます。

総会に提案すべき議案書は、例年通りに昨年度事業実績結果・決算と本年度事業計画・予算及び役員リスト（一部担当変更）等について作成し、会計（昨年度の決算）については監事による監査を実施していただいております。用意していた総会資料は、理工学部同窓会（菱実会）のWebサイトに掲載しておりますので、お目通しいただければと存じます。

理工学部同窓会役員担当（2020年度－2021年度）

2020年度－2021年度の理工学部同窓会の役員は次の通りです。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、各種委員会を開催することが難しい状態が続いておりますが、少しでも理工学部同窓会の活動を促すために、役員業務担当を一部変更しました。

(2021年3月18日)

役職	担当	氏名	学科・入学	勤務先	佐大同窓会役職・担当
会長		穂屋下 茂	機械・S45		副会長
副会長	庶務	島 公二武	機械・S46		理事・庶務部
理事	庶務	牧瀬 稔子	数学・S55	佐賀市役所	
理事	庶務	古川 裕紀	生機・H4	佐賀県議会	
副会長	会報	小玉 純士	建設・S57	ダン技術設計(株)	理事・会報発行部
理事	会報	田中 高行	電子・S57	佐賀大学	
理事	会報	岩部 敦也	電気・H2	(株)戸上電機製作所	
理事	会報	淵上貴由樹	都市・H12	佐賀大学	
副会長	組織強化	山口 智啓	生機・S48		理事・支部強化部
理事	組織強化	樋口 幸弘	土木・S49	松尾建設(株)	
理事	組織強化	香月 俊彦	機械・H22	(株)ミゾタ	
副会長	情報管理	山中 輝樹	情報・H2	(株)佐賀電算センター	理事・情報管理部長
理事	情報管理	池上 康之	生機・S57	海洋エネルギー研究センター	
理事	情報管理	田中 稲穂	化学・S61	(株)AIT物産	理事・情報管理部
理事	情報管理	津留 保生	電気・S61	津留公認会計士事務所	
副会長	学生支援	宮地 幸夫	工化・S46		理事・学生支援部
理事	学生支援	中西 美香	数学・S63	佐賀商業高等学校	
理事	学生支援	山城 佑太	機械・H28	佐賀大学院	
監事		中島 道夫	化学・S43		監事
監事		椿 忠彦	物理・S48	龍谷中学校・高等学校	
(顧問)		秋永 正幸	機械・S41		

菱実会役員の自己紹介

佐賀大学との関わり

牧瀬 稔子 (数学・S59年卒)



2020(令和2)年4月から理事を仰せつかりました。新型コロナウイルス感染症対策が十分とられた「ちょっと寒い会議室」での役員会、大学関係者や何らかの関りのある役員の皆様の中で、「安直に役を引き受けたのでは。」と、当初戸惑いを感じました。

菱実会は、同窓会として「学生」を少しでも応援したいという思いと存在意義を高めるという目的、さらに社会人への応援も取り入れたいとの思いが伝わる会です。表彰式では頑張っている学生の様子を知ることでもでき、また、時折、遠い昔の話も伺え、義務感のみで参加した当初から今では役員会への参加が楽しいものになっています。理工学部とは縁の薄い仕事に就いていまずので、役員として貢献できることは少ない(皆無)ですが、微力ながら頑張りますのでよろしくお願いたします。

私の勤務する市役所は、住民に一番身近な行政でまちづくりや災害対応など多岐にわたる仕事を行っています。それぞれの部署では、大学の先生方から指導助言を頂きながら事業を進めることも多く、地元である佐賀大学との連携は深い職場でもあります。

また、現在の派遣先「佐賀県後期高齢者医療広域連合」は県内全20市町で構成される組織で75歳以上の後期高齢者の医療保険を担う仕事です。さらに、全国協議会の事務局も担っていますので厚生労働省と密接に関わっています。県内での佐賀市や全国での佐賀県の状況を別の角度で見つめることができます。

コロナが落ち着き、本来の活発な役員会活動ができる日を心待ちにしています。

地元の佐賀に貢献したい

田中 稲穂 (化学・S61入)



佐賀大学を卒業してから生まれ育った佐賀を離れて県外で暫くサラリーマンとして勤務しておりました。2013年にリストラで佐賀に戻ってきて、再就職先で営業担当して佐賀大学理工学部同窓会を知りました(はい、幽霊同窓生でした)。たまたま菱実会役員先輩よりお誘い頂き、理事を拝命させて頂きました。その後、独立起業して現在に至ります。年一回のメインイベントであります同窓会総会で同窓生をはじめ先生方、先輩そして現役学生さんも含めた後輩の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。ここ2年間は新型コロナウイルス対策のために中止になりましたが、またホームカミングデーやwebでのイベントなどで皆様とお会いできます様に期待しております。仕事の面でも企業や地域の皆様と佐賀大学とが連携して世の中に貢献出来ればとの想いで取り組んでおります。今後ともよろしくお願致します。



天山山系をバックに佐賀平野を彩る黄金の麦畑と佐賀県医療センター好生館

菱実会の動き

2020
4月

2021
3月

2020. 4. 2 佐賀大学入学（コロナ禍のため、式典は中止）
（学部生1,360人・大学院生301人 合計1,661人）
- 6 ○佐賀大学同窓会 会計監査（2019年度分）
 - 6 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 7 *理工学部同窓会 会計監査
 - 9 ○佐賀大学同窓会「第1回代表役員会」
芸術地域デザイン学部同窓会が発足。初代会長が出席
 - 14 ○佐賀大学同窓会 会報発行部会 第1回編集会議（書面会議）
 - 15 佐賀大学新入生オリエンテーション
 - 15 ○佐賀大学同窓会「春期定例役員会」（書面会議）
 - 5. 1 新入生オリエンテーション
 - 12 *理工学部新入生への同窓会の紹介（於：大学入門科目）
 - 24 *理工学部同窓会「第1回菱実会役員会」
 - 6. 4 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 8 ○佐賀大学同窓会と各学部後援会との話し合い
 - 11 ○佐賀大学同窓会「第2回代表役員会」
 - 7. 1 *理工学部同窓会 会報「菱の実 第22号」発行
 - 1 ○佐賀大学同窓会会報「楠の葉 第33号」発行
 - 28 ○佐賀大学同窓会「情報管理部会」
 - 30 *理工学部同窓会「第2回菱実会役員会」
 - 8. 24 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 26 ○佐賀大学同窓会「臨時代表役員会」
 - 9. 8 ○佐賀大学同窓会「学生支援部会」
 - 10 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 17 ○佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会
 - 26 ○佐賀大学菱の実会館内同窓会事務局のLAN配線等補修工事
 - 28 *理工学部在学生表彰（理工学部長賞）（計14名）
 - 10. 20 ○佐賀大学同窓会 会報「楠の葉第34号」編集会議室
 - 21 ○佐賀大学同窓会「教員としてのキャリアデザイン講座」
講師：松尾 絃希（文化教育学部卒：小城市立思斉館小学部）
 - 22 *理工学部同窓会「菱の実 臨時号No.3」編集会議室
 - 28 ○佐賀大学同窓会「民間企業としてのキャリアデザイン講座」
講師：石井 賢和 氏（経済学部卒：リコージャパン）
 - 29 *理工学部同窓会「会長・副会長会議」
 - 29 ○佐賀大学同窓会「学習会」「オンライン会議の実現に向けて」
講師：有吉 一峰 氏、石井 賢和 氏（リコージャパン）
 - 11. 4 ○佐賀大学同窓会「民間企業としてのキャリアデザイン講座」
講師：宝蔵寺 克洋 氏（理工学部卒：佐賀電産センター）
 - 5 *理工学部同窓会「第3回菱実会役員会」
 - 11 ○佐賀大学同窓会「民間企業としてのキャリアデザイン講座」
講師：安藤 新一 氏（農学部卒：JA佐賀中央会）
 - 11 *理工学部と理工学部同窓会との意見交換会／菱の実会館多目的室
 - 14 佐賀大学「ホームカミングデー」
 - 18 ○佐賀大学同窓会「芸術を活かしたキャリアデザイン講座」
講師：江副 哲哉 氏（文化教育学部卒：あおいろデザイン）
 - 23 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（物理：卒業生1名）
 - 25 ○佐賀大学同窓会「公務員としてのキャリアデザイン講座」
講師：伊東 孝彦 氏（経済学部卒：佐賀県庁）
 - 12. 2 ○佐賀大学同窓会「公務員としてのキャリアデザイン講座」
講師：倉本 直樹 氏（理工学部卒：国立研究開発法人 産業技術総合研究所）
 - 2 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 4 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（物理：卒業生1名）
 - 7 *理工学部同窓会「第4回菱実会役員会」
 - 7 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（情報：卒業生1名）
 - 9 ○佐賀大学同窓会「公務員としてのキャリアデザイン講座」
講師：田浦 孝 氏（農学部卒：農業技術防除センター）
 - 10 ○佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」／オンライン会議での実施
 - 16 ○佐賀大学同窓会「佐賀大学同窓会の紹介」／オンライン
 - 17 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（都市：卒業生2名）
 - 21 *理工学部同窓会「第5回菱実会役員会」
 - 21 *理工学部同窓会「第5回菱実会賞表彰式」
（受賞者：学部生2名）
 - 22 *理工学部同窓会「菱の実臨時号」3号編集会議
 - 23 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（物理：卒業生1名）
 - 2021. 1. 5 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（電電：卒業生2名）
 - 7 ○佐賀大学同窓会会報「楠の葉 第34号」発行
（1月の会報誌は、発送せず同窓会Webサイトでのみ閲覧可）
 - 14 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（情報：卒業生1名）
 - 14 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（化学：卒業生2名）
 - 14 *理工学部同窓会「理工学部キャリアデザインセミナー」
（数理：卒業生1名）
 - 16 令和3年度大学入学共通テスト
 - 27 ○佐賀大学同窓会 三者打合せ会
 - 2. 1 *理工学部同窓会「菱の実」臨時号No.3発行
 - 5 *理工学部同窓会「組織担当者会議」
 - 10 ○佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」
 - 25 佐賀大学前期試験（25～26日）
 - 3. 18 *理工学部同窓会「第6回菱実会役員会」
 - 18 *理工学部同窓会「第1回理工学部同窓会長賞表彰式」
（受賞者：学部4年生6名）
 - 23 令和2年度佐賀大学学位記授与式
（学部生1,282人・大学院生269人 合計1,551人）
 - 23 ○佐賀大学同窓会「佐賀大学同窓会長賞」表彰授与
受賞者：
教育学部 団体 るびなす（代表：麓 日向子 氏）
医学部 個人 南里 咲良 氏
理工学部 個人 浅川 泰輝 氏
農学部 個人 服部 南 氏
 - 29 校友会国際交流奨励金審査会への陪席／オンライン会議
 - 30 ○佐賀大学同窓会会計監査（令和2年度）
 - *理工学部同窓会「同窓会運営デジタル化会議」は2020年4月8日～2021年3月25日までに39回開催した。

(*印は理工学部同窓会、○印は佐賀大学同窓会、無印は佐賀大学)

お知らせ

佐賀大学に入学した学部生は、各学部同窓会と佐賀大学同窓会に所属することになっております。理工学部に入学者は、佐賀大学理工学部同窓会（菱実会）と佐賀大学同窓会とに所属しております。理工学部同窓会では、原則として年1回理工学部同窓会会報「菱の実」を発行し、佐賀大学同窓会は年2回同窓会会報「楠の葉」を発行しております。

それらの会報は、同窓会WebサイトにPDF版をアップ（<http://sadai.jp/alumni/dousoukai/docs/>）して、各自誰でもダウンロードできるようにしております。なお、理工学部同窓会会報「菱の実」のバックナンバーも菱実会Webサイト（<http://sadai.jp/alumni/ryoujitsukai/docs/>）に全てアップしております。

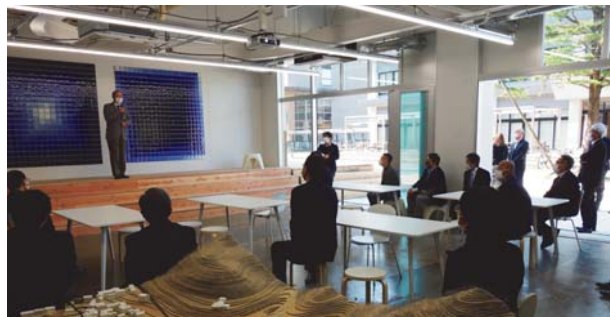
佐賀大学理工学部 4号館に寄贈

野老朝雄氏の有田焼陶板タイル作品

佐賀大学理工学部4号館の2020年度改修にともない、その1階に理工学部部門共有スペースとして、「デザインギャラリー」が新たに開設されました。菱実会では、その一角に企画された地域連携壁プロジェクトに賛同し、有田焼陶板タイル作品を共同で寄贈しました。2021年4月7日に、関係者向け「理工学部4号館デザインギャラリー内覧会」が開催され、菱実会から穂屋下茂会長が招待され、理工学部長はじめ関係者から今回の寄贈について謝意をいただきました。

本作品「有田焼瑠璃百段階卍(陰)(陽)2021」のデザインは東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレムをデザインした美術家・野老朝雄氏、陶板制作は寺内信二氏(李荘窯代表)によるものであり、100段階の瑠璃色・計800枚の有田焼の陶板を用いた、2m×2mの2つ(1対)の大作です。

理工学部4号館1階デザインギャラリーは食堂や売店があるかささぎホールと向かい合う位置にあります。今後はこの作品とともに佐賀大学本庄キャンパスにおける学生等の新しい憩いと交流の場として、また佐賀大学理工学部の新しい教育研究の場として、国内外に広くアピールできるものと大いに期待できます。同窓生、保護者の皆様におかれましても、ご来校の機会があればぜひご覧いただければ幸いです。



「理工学部4号館デザインギャラリー内覧会」の様子



寄贈銘板

文責：後藤 隆太郎、淵上 貴由樹

研究や技術開発の相談窓口

佐賀大学では、様々な研究が行われており、多くの研究成果が生まれています。佐賀大学リージョナル・イノベーションセンターは、本学の研究力の更なる強化に向けた研究企画や研究支援を行うとともに、地域を志向した社会貢献・研究を推進し、地域活性化の中核的拠点、すなわち、地域のシンクタンクとなることを目指して、2017年に設置されました。センター長、4名のURA(企業や大学等での研究や産学連携経験者)がセンター業務にあたっております(12頁参照)。卒業生の皆様で、職場等において技術開発、調査研究、特許出願、ベンチャー創出等が必要になり、適切な相談先が見つからないケースがあると思います。そのような際には、相談実績の多い本センターに気軽に相談してみませんか。何らかのお力添えができると確信しています。

お問い合わせ先：電話番号：0952-28-8961 E-mail：suric@ml.cc.saga-u.ac.jp

お問い合わせ先

佐賀大学同窓会事務局

TEL: 0952-23-1253 FAX: 0952-25-5700
e-mail: dousoukai@sadai.jp



*住所等の変更があった場合も、このウェブページをご利用ください。